

南アフリカの落葉果実事情(リンゴ、生食用ブドウ)

米国農務省GAINレポート 2024年5月16日

これは米国農務省海外農業局プレトリア事務所(南アフリカ)が作成した「生鮮落葉果実半期報告書」のリンゴ及び生食用ブドウの項(一部省略)を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

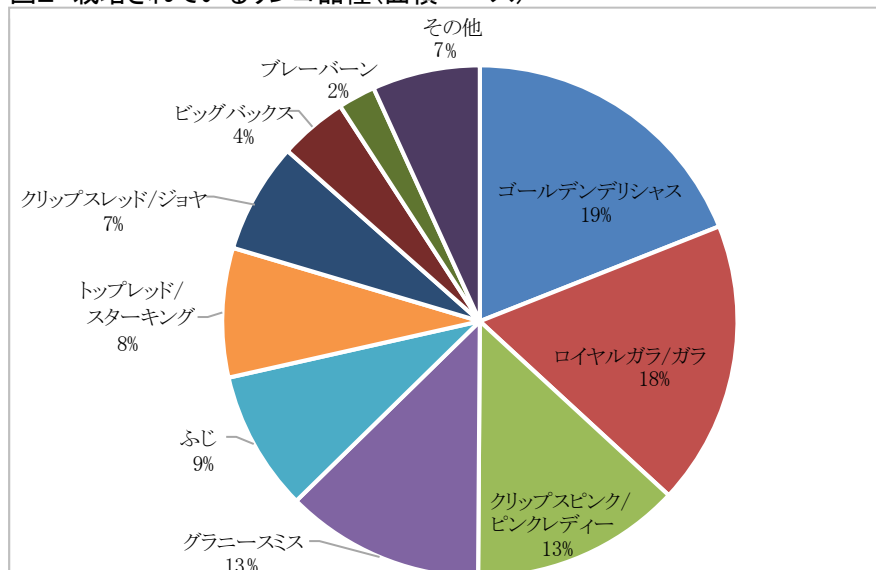
<リンゴ(生鮮)>

西ケープ州は南アフリカ最大のリンゴ産地であり、東ケープ州と合わせてリンゴ生産量の95%以上を占めている(図1)。より北方にはフリーステート州、ムプマランガ州及びリンポポ州を中心に、小さいながらも成長している産地が形成されている。南アフリカ産リンゴの収穫は通常1月から5月までで、2月から4月までの間に収穫のピークがある。CA貯蔵により、国内市場と国際市場の両方に一年を通じて出荷することができる。主に輸出市場で販売されるクラス1の果実は、通常約9カ月間CA貯蔵され、その後、それより短い期間(3カ月)普通の大気(RA)の貯蔵庫で保管される。

図1 南アフリカの落葉果樹産地



図2 栽培されているリンゴ品種(面積ベース)



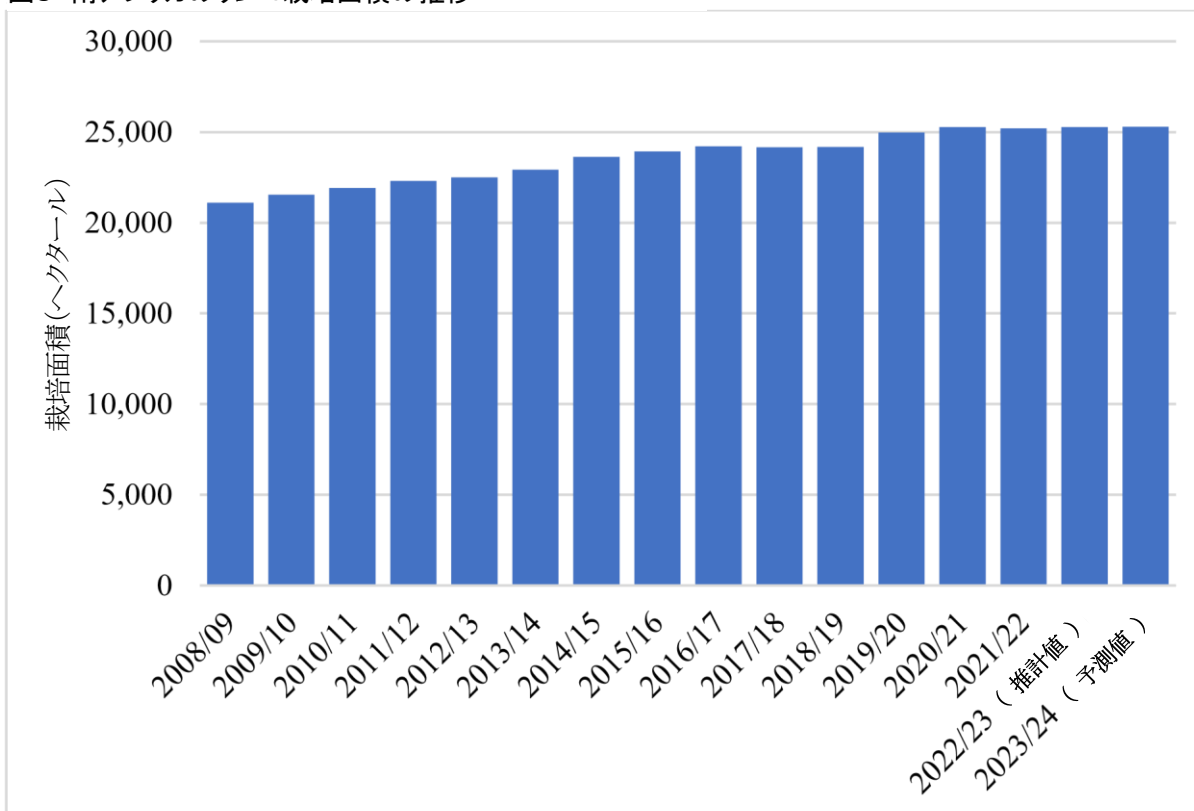
出典: Hortgro 果樹センサス2022年

南アフリカでは6つの品種がリンゴ生産を支配し、栽培面積の約80%を占めている。選択される品種は、主に南アフリカの輸出市場における消費者の需要によって決定される(図2)。しかし、過去5年間の植栽は、収量を増やしたいという生産者の願望によって推進されてきた。

栽培面積

近年、南アフリカのリンゴ栽培面積は、ケープタウン港の物流上の問題、鉄道の不調、変動する天候パターン、国内市場の低迷、限られた加工処理能力と冷蔵施設、投入コストの上昇、及び不安定な電力供給によって悪影響を受けている。これらの問題により、栽培面積の伸びが停滞し、多収品種への新植及び改植が制約されたため、2023/24年度の生産量は2万5,300トンの横ばいと予想される(図3)。生産者らは、防雹ネット、信頼性の高い電源及び水源、並びに高い投入コストを相殺するための事業の垂直統合に投資を集中させているようである。当事務所の情報提供者の報告によると、苗木の発注が最小限にとどまっており、これも業界が集約されていることを反映している。好天に恵まれた2023/24年度は、降雹被害を受けた2022/23年度に比べて収穫面積が回復する見込みである。

図3 南アフリカのリンゴ栽培面積の推移



出典: Hortgro 及び当事務所推計値

生産

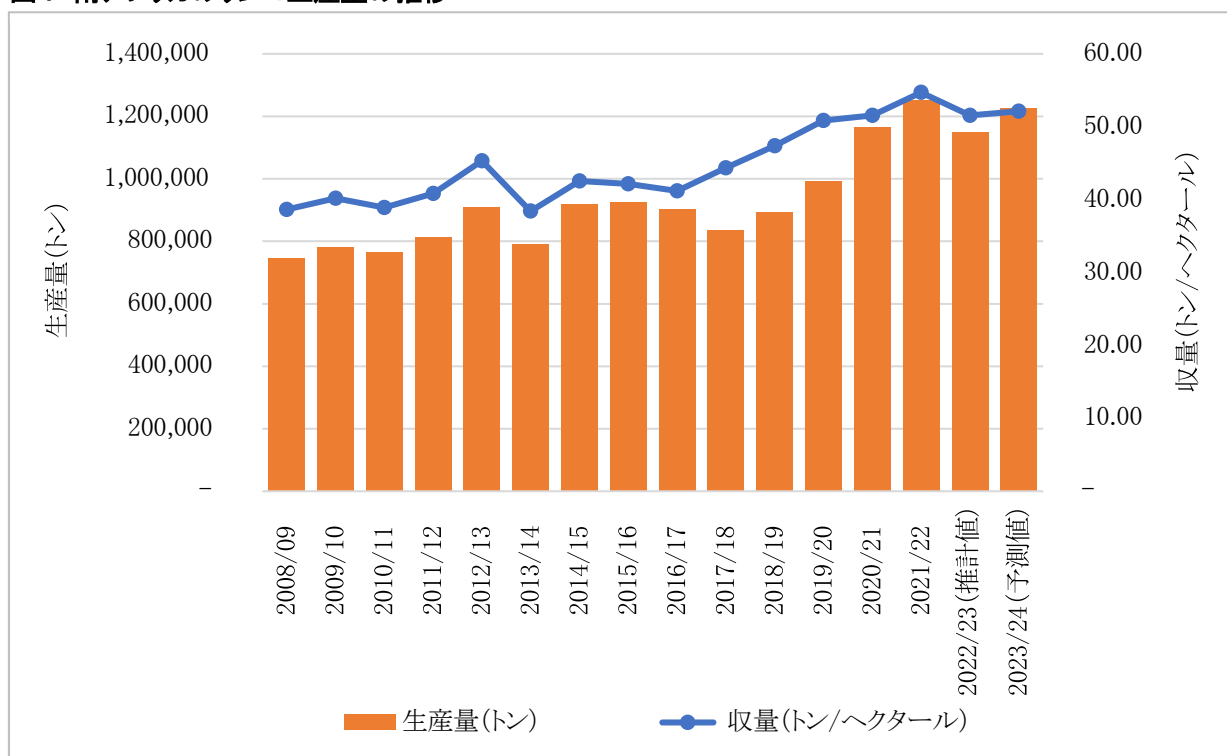
当事務所は、2023/24年度の南アフリカのリンゴ生産量が、良好な天候と収穫面積の改善により、2022/23年度に比べて7%増加すると予測する。2023年の冬は寒く雨が多かったため、十分な低温時間があった。また、この天候により灌漑用水が十分に確保されて果実の肥大が順調に進んだため、2023/24年度の総生産量が増加した。

西ケープ州の一部の産地、すなわちエルジン、グラボウ、ヴィーブーム及びヴィリアーズドープの各地域は、2023年10月の洪水の影響を受け、薬剤散布計画が阻害され、受粉率がわずかに低下した。西ケープ州も2024年4月に嵐と強風に見舞われたが、業界関係者によると、未収穫の果実のうち風で損傷したり吹き飛ばされたりしたのは極一部であった。風がもたらした寒さは、晩生の赤・ピンク系リンゴ品種の着色を助長した。

2022/23年度の生産量は、西ケープ州のリンゴ産地、特にセレス地域とラングクローフ地域が降雹の影響を受けたため8%減少した。降雹は果実に物理的なダメージを与え、リンゴの出荷量が減少した。当事務所の情報提供者らによると、この地域の一部の生産者は、降雹による被害と加工処理能力の制約により、果実の一部を収穫せずに樹上に放置した。

2021/22年度の南アフリカはシーズンを通して天候に恵まれ、作柄と品質が良くなったため、過去最高の125万トンのリンゴを出荷した。

図4 南アフリカのリンゴ生産量の推移



出典: Hortgro 及び当事務所の推計

輸出

当事務所は、2023/24年度は輸出可能な品質の供給量が増えるため、リンゴの輸出量は7%回復するものと予測する。当事務所の情報提供者らは、輸出はガラ、クリップスレッド、ビッグボックス等の2色のリンゴ品種とピンクレディー品種の増加によって牽引されるであろうと報告している。

機器の故障や風による遅延に起因する港湾の非効率性は、依然として輸出が遅延するリスクを高めている。ケープタウン港の管理会社と果実業界の関係者は、輸出果実の積み残しに対処するために定期的に連絡を取り合っている。リンゴは従来ケープタウン港から出荷されてきたが、同港の問題が原因で、一部の輸出業者はリンゴをポートエリザベス港に陸送し、そこから出荷することを選んだ。

アフリカ諸国への輸出は、需要の高まり(特にピンクレディー、ガラ、ゴールドデリシャス)、これらの市場での競争の少なさ、及び最適とは言えない取り扱いに耐えるリンゴの特性によって大きく推進されている。しかし、アフリカ諸国への輸出は、貿易コストの高さと物流上の課題によって制限されている。南アフリカは欧州連合(EU)と英国の両方と自由貿易協定を結んでおり、これらの市場への免税輸出の恩恵を受けている。

アフリカと欧州の市場は従来から堅調であるが、輸出の成長は主にアジアへの輸出の増加が牽引すると予想されている。南アフリカのインド向けリンゴ輸出は、インド政府が南アフリカ産のリンゴとナシの輸出における輸送中の冷蔵処理を承認したことにより、2022/23年度に約30%増加した。

表1 南アフリカの生鮮リンゴ輸出

輸出先国	2021/22 年度	2022/23 年度	増減率	1月～3月		
				2022/23 年度	2023/24 年度	増減率
英国	77,948	69,201	-11%	1,105	1,917	73%
ナイジェリア	56,937	44,628	-22%	10,191	7,193	-29%
バングラデシュ	38,008	42,427	12%	18,978	17,942	-5%
マレーシア	37,413	38,969	4%	6,458	4,802	-26%
アラブ首長国連邦	34,791	37,283	7%	12,980	15,955	23%
ロシア	26,463	11,976	-55%	863	906	5%
ベトナム	23,783	24,409	3%	3,174	3,726	17%
セネガル	22,772	20,576	-10%	3,756	4,631	23%
オランダ	21,786	23,391	7%	341	868	155%
ケニア	17,558	18,393	5%	3,008	2,105	-30%
インド	17,470	22,712	30%	6,754	17,377	157%
ジンバブエ	16,095	14,823	-8%	2,440	3,600	48%
ザンビア	15,508	14,667	-5%	2,730	2,222	-19%
ボツワナ	14,172	13,171	-7%	3,624	3,694	2%
中国	13,223	16,290	23%	3,959	2,529	-36%
ガーナ	12,667	11,954	-6%	3,021	2,333	-23%
ドイツ	11,987	6,394	-47%	123	314	155%
カメルーン	10,784	10,808	0%	2,186	2,470	13%
ナミビア	10,678	11,697	10%	2,618	2,638	1%
その他	145,060	153,487	6%	28,346	35,095	24%
合計	625,103	607,256	-3%	116,655	132,317	13%

出典: Trade Data Monitor, LLC.

表3 生鮮リンゴの生産需給統計

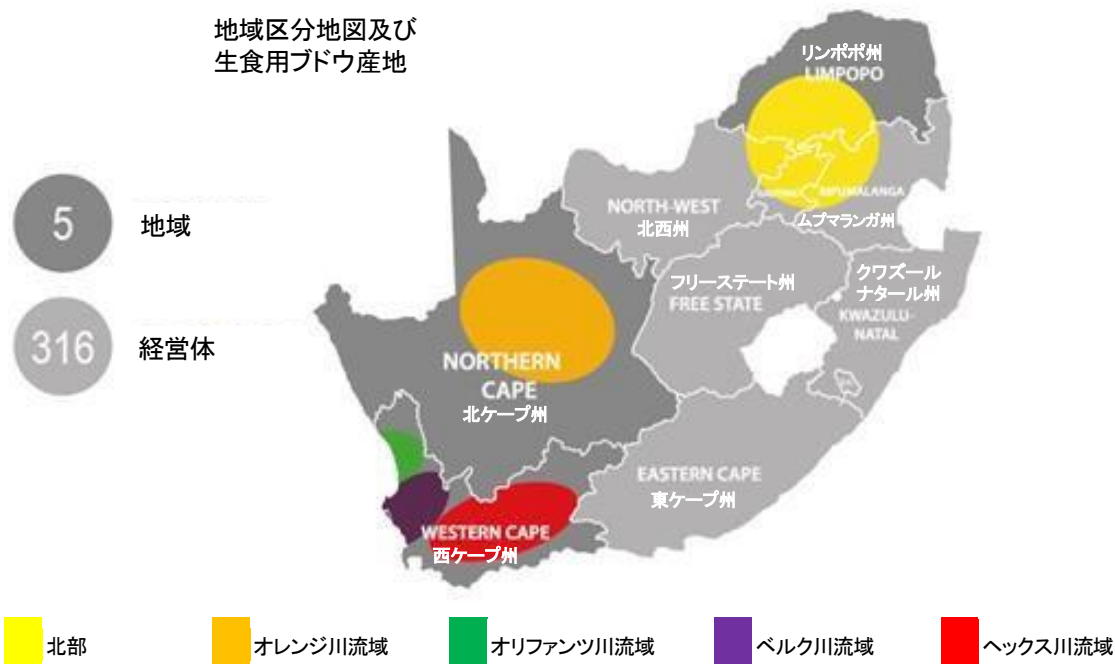
リンゴ(生鮮)	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2022 年 1 月		2023 年 1 月		2024 年 1 月	
市場年度の始まり	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
南アフリカ						
栽培面積	25,209	25,209	25,400	25,277	25,500	25,300
収穫面積	22,850	22,850	22,300	21,500	23,500	23,500
結果樹本数	33,637	33,637	33,700	33,700	33,800	33,800
未結果樹本数	3,100	3,100	3,000	3,000	3,000	2,000
果樹総本数	36,737	36,737	36,700	36,700	36,800	35,800
商業的生産量	1,250,000	1,250,000	1,150,000	1,150,000	1,230,000	1,225,000
非商業的生産量	0	0	0	0	0	0
生産量合計	1,250,000	1,250,000	1,150,000	1,150,000	1,230,000	1,225,000
輸入量	25	25	25	47	25	30
総供給量	1,250,025	1,250,025	1,150,025	1,150,047	1,230,025	1,225,030
国内消費量	624,925	624,922	555,025	542,791	580,025	575,030
輸出量	625,100	625,103	595,000	607,256	650,000	650,000
市場からの隔離	0	0	0	0	0	0
総仕向量	1,250,025	1,250,025	1,150,025	1,150,047	1,230,025	1,225,030

単位: ヘクタール、千本、トン

<生食用ブドウ(生鮮)>

南アフリカの生食用ブドウの主な産地は、西ケープ州のヘックス川流域(32%)、ベルク川流域(23%)、オリファンツ川流域(6%)、北ケープ州のオレンジ川流域(29%)、北東部のリンポポ州(10%)等である(図8)。

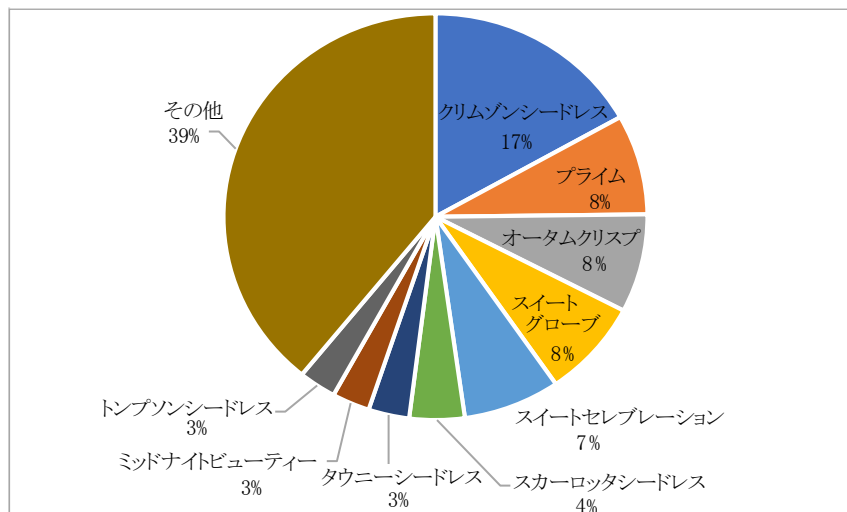
図8 南アフリカの生食用ブドウ産地



出典: SATI

南アフリカ生食用ブドウ協会(SATI)の果樹センサス(2023年)によると、生食用ブドウの栽培面積の大部分が樹齢3~9年(53%)で、次いで樹齢10~15年(20%)、2年未満の若い園地(15%)となっている。南アフリカの生食用ブドウの品種構成は、過去10年で大きく変化した。消費者が種無しブドウを好むことから、種無しの生食用ブドウ品種の生産が伸び、種の有る品種は減少している。現在、まだ種有りの生食用ブドウを栽培しているのは、ブドウ園の8%未満である。新植に当たっては、オータムクリスピ、スイートセレブレーション、スイートグローブの3つの品種が非常に好まれている。

図9 栽培されている生食用ブドウ品種



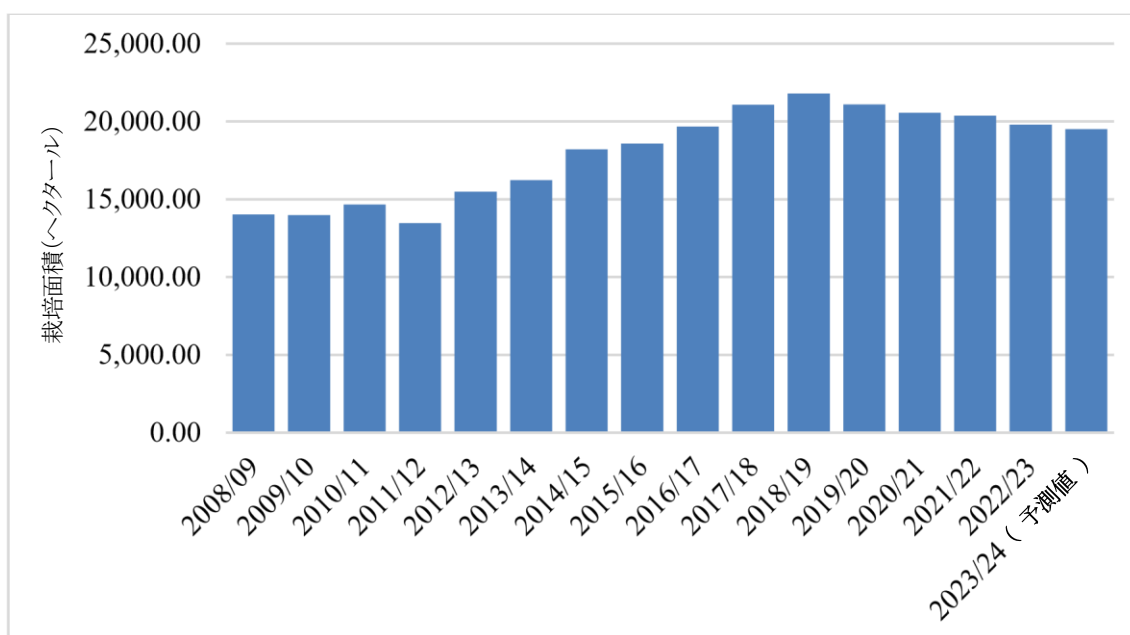
出典: 2023年 SATI果樹センサス

栽培面積

当事務所は、2023/24年度の生食用ブドウ栽培面積を微減の約1万9,500ヘクタールと予測する。栽培面積の停滞は、2012年から2019年までの主に輸出収入の増加に牽引された生食用ブドウ栽培面積の急増(図10)に続くものである。非効率な港湾運営、老朽化した道路網及び頻繁な停電により、南アフリカの生食用ブドウ生産者の収益が低下し、業界への新規投資が抑制されている。

生産者らは、2023/24年度に投入コスト、特に燃料、電気、人件費の増加に直面した。肥料や農薬のコストは緩和されたものの、依然としてロシア・ウクライナ紛争前の価格水準を上回っている。同業界団体によると、生産者にとって最大の直接費は人件費であり、直接費全体の約55%を占めている。南アフリカ雇用労働省は、2024年3月1日付けで時給27.58ランド(1.48ドル)の新しい全国最低賃金を公表し、これは2023年の25.42ランド(1.36ドル)に比べて8%の上昇となった。一方、当事務所の情報提供者は、総コストに占める人件費の割合は年々下がっていると断言している。

図10 南アフリカの生食用ブドウ栽培面積



出典: 南アフリカ生食用ブドウ協会(SATI)及び当事務所推計

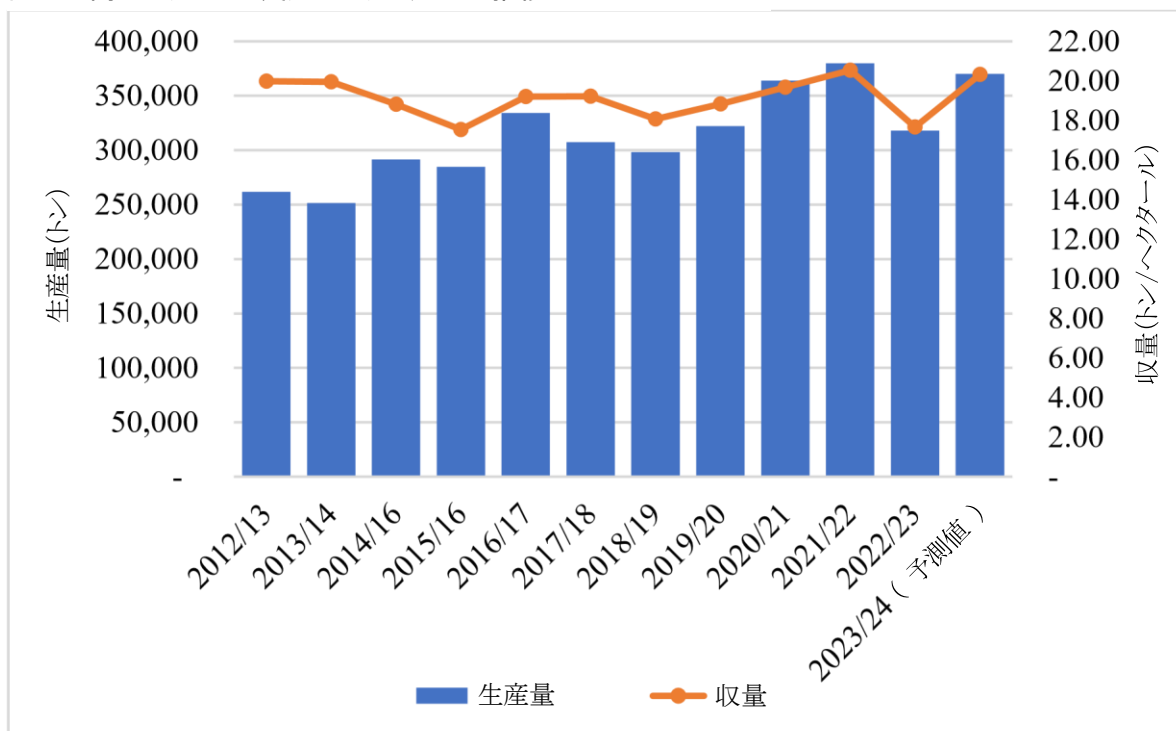
2022/23年度の栽培面積は3%減少して1万9,788ヘクタールとなった。北ケープ州は、気象条件の変化と生産コストの上昇により、栽培面積の減少幅が最も大きかった。

生産

当事務所は、2023/24年度の南アフリカの生食用ブドウ生産量を、悪天候により収量が低かった2022/23年度に比べて16%の増加となる37万トンに上方修正する。生食用ブドウ産地の2023年(2023/24年度産)の冬は休眠に理想的な低温を特徴とし、果粒のサイズ、色付き及び品質の改善に役立った。これらの条件は、病害虫の圧力も低下させた。ヘックス川流域の産地で局地的な降雹が報告されたが、全国の生食用ブドウ生産量には大きな影響を与えなかった。さらに、生産量は、新しい品種の成木化によっても支えられた。2023/24年度の出荷シーズンは、ヘックス川流域における中生から晩生の時期の天候パターンの変化と降雨により、例年より約2週間早く終了した。このため、晩生品種の生産量が通常よりも少なくなった。

2021/22年度に38万トンという過去最高の収穫量を記録した後、2022/23年度の生食用ブドウの生産量は16%減の31万8千トンとなった(図11)。これは、栽培面積の微減と、特にオレンジ川流域での悪天候によるものである。2021/22年度の記録的な収穫量は、生食用ブドウの栽培面積が減少したものの、多収性新品种の本格的な生産が始まったことと、シーズン中の天候に恵まれたことで達成された。

図11 南アフリカの生食用ブドウ生産量の推移



出典：米国農務省、SATI及び当事務所推計

輸出

当事務所は、輸出品質の生産量の20%の増加を反映し、2023/24年度の生食用ブドウの輸出量を34万トンに上方修正する。輸出はまた、2022/23年度と比較して米ドルに対する為替レートと輸送コストがともに低下したことにも支えられている。

従来、南アフリカの生食用ブドウの輸出の約90%はケープタウン港を經由し、6%がダーバン港を經由していた。ケープタウン港では風と霧による遅延が発生し、そのうち2023/24年度の輸出シーズン中の2回の大幅な遅延では、2万トン以上が影響を受けた。極めて日持ちの悪い生食用ブドウの輸出において大幅な遅延が報告されたことから、港湾の非効率性は重大な脅威となっている。これらの遅延は、2023/24年度の輸出量には大きな影響を与えなかったが、品質上のクレーム、シーズン序盤のプレミアム価格を逃したこと、タイムリーな納品に関する契約の不履行などにより、利益率に影響を与えた。

港湾危機を是正する手段として、港湾管理者、政府及び果実業界関係者は、輸出シーズン中の準備体制と港湾の生産性を定期的に確認し、必要に応じて是正措置を講じている。2023/24年度には、一部の船会社が船舶の入港先をケープタウン港からポートエリザベス港に変更し、圧力を幾分か軽減した。当事務所の情報提供者は、生食用ブドウ輸出の約10.6%がポートエリザベス港経由であったと報告している。

複数の船会社は、ケープタウン港への圧力を和らげる追加の措置として、特にEUと英国の市場に向けて、非コンテナ船を毎週運航していると報告している。また、従来ケープタウン港を通じて輸出していたナミビアの輸出業者らは、生食用ブドウの輸出の約21%をウォルビスベイ港(ナミビア)経由で出荷した。

2023/24年度に輸出された品種は、クリムゾンシードレス、スイートグローブ、スイートセレブレーション、プライム及びオータムクリスプで、全体的な生産量を反映している。

2022/23年度の生食用ブドウの輸出量は28万3,255トンとわずかに下方修正され、2021/22年度と比較して16%の減となった。輸出量の減少は、生産量の減少と港湾の問題によるものである。ケープタウン港の非効率性とリーファーコンテナ運賃の高騰が、業界に大きな圧力をかけた。生食用ブドウの輸出シーズンのピーク時である2023年2月には、ケープタウン港が強風のために約240時間閉鎖され、この非常に傷みや

すい果実の取扱いに大きな支障をきたした。

ヨーロッパは南アフリカ産生食用ブドウの主要な輸出市場であり、2022/23年度の生食用ブドウ総輸出量の約75%を占めている。ヨーロッパ市場への入り口であるオランダは、南アフリカ産生食用ブドウの最大の輸出先であり、総輸出量の40%以上を占めている。南アフリカは、他の南半球の競合国よりもヨーロッパへの輸送距離が短く、EU及び英国との優遇的な貿易協定の恩恵を受けている。

アジア、中東、アフリカへの輸出にも大きな成長の可能性が有り、南アフリカの生食用ブドウ産業の関心の中核をなすものである。米国への輸出量は過去5年間で大幅に増加したが、その量は依然として6千トン未満であり、生食用ブドウの総輸出量の2%未満を占めるに過ぎない。米国に輸出される主な品種は、オータムクリスプ、レッドシードレス、アドラシードレス等である。

表8 南アフリカの生食用ブドウ輸出量(トン)

輸出先	2021/22	2022/23	2023/24*
欧州連合	179,554	154,406	189,929
英国	75,027	57,557	65,170
中東諸国	17,945	20,320	11,117
カナダ	20,152	14,441	20,430
東南アジア諸国	15,839	14,169	10,537
中国及び香港	11,290	8,153	6,162
アフリカ諸国	5,957	4,171	3,892
ロシア	3,452	3,728	6,683
米国	3,719	3,460	5,997
インド洋の島国	1,690	1,407	2,022
その他	1,126	1,445	7,272
不明	-	-	2,017
合計	335,750	283,255	331,230

出典: SATI

*: 2024年第15週までの輸出量。輸出は通常第20週までに終了する。

表11 南アフリカの生食用ブドウの生産需給統計

ブドウ(生食用、生鮮)	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021年10月		2022年10月		2023年10月	
販売年度の始まり	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
南アフリカ						
栽培面積	20,379	20,379	19,788	19,788	19,500	19,500
収穫面積	18,500	18,500	18,000	18,000	18,000	18,200
商業的生産量	380,000	380,000	318,000	318,000	342,000	370,000
非商業的生産量	0	0	0	0	0	0
生産量合計	380,000	380,000	318,000	318,000	342,000	370,000
輸入量	9,700	9,700	10,900	10,907	10,000	9,000
総供給量	389,700	389,700	328,900	328,907	352,000	379,000
生鮮国内消費量	53,900	53,900	43,900	45,652	42,000	39,000
輸出量	335,800	335,800	285,000	283,255	310,000	340,000
市場からの隔離	0	0	0	0	0	0
総仕向量	389,700	389,700	328,900	328,907	352,000	379,000

単位: ヘクタール、トン